

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年10月30日

上場取引所 東大

上場会社名 テイカ株式会社

コード番号 4027 URL <http://www.tayca.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 清野 學

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務取締役

(氏名) 杉江 一彦

TEL 06-6208-6404

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	14,452	△18.7	560	△29.8	558	△30.4	314	△32.7
21年3月期第2四半期	17,768	—	798	—	803	—	467	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	6.28	—
21年3月期第2四半期	9.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	37,800	22,425	59.1	446.15
21年3月期	38,290	21,784	56.7	433.56

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 22,353百万円 21年3月期 21,725百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
22年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
22年3月期 (予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,000	△7.3	950	9.7	900	9.4	500	11.1	9.98

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 51,428,828株 21年3月期 51,428,828株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 1,325,475株 21年3月期 1,320,476株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 50,104,528株 21年3月期第2四半期 50,124,266株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、一部に景気底打ちの兆しが見られるものの、設備投資の減少や個人消費の低迷等、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境下において、当社グループは引き続き機能性製品を中心に積極的な販売活動を展開いたしました。当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は144億5千2百万円（前年同期比18.7%減）、営業利益は5億6千万円（前年同期比29.8%減）、経常利益は5億5千8百万円（前年同期比30.4%減）、四半期純利益は3億1千4百万円（前年同期比32.7%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間のセグメント別の概況は次のとおりであります。（添付資料の9ページ「セグメント情報」をご参照ください）

酸化チタン関連事業

汎用途の酸化チタンは、世界同時不況により需要が急減した昨年後半から年初にかけての最悪期こそ脱しましたが、比較的好調なインキ向けを除き、塗料向け外の需要の回復は十分ではなく、また安価な海外品との厳しい価格競争や円高の影響もあり、国内・輸出とも販売数量、売上高は減少いたしました。

機能性用途の微粒子酸化チタン、表面処理製品につきましても、不況による高級化粧品の販売不振、コピー機やプリンターのトナー需要減少の影響等もあり、化粧品・工業用向けとも販売数量、売上高は減少いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は82億4千2百万円（前年同期比16.5%減）となりました。

その他化学品事業

界面活性剤は、主用途の洗剤・シャンプー等日用品向けが概ね順調で、販売数量は前年同期並みを維持いたしました。原料価格の下落に伴い価格修正を行った結果、売上高は減少いたしました。海外の連結子会社につきましては引き続き順調に推移いたしました。

硫酸につきましては需要が低迷し、販売数量・売上高ともに減少いたしました。

無公害防錆顔料は自動車の販売不振の影響を受け、販売数量・売上高ともに大幅に減少いたしました。

導電性高分子酸化重合剤、電池セパレータにつきましても、昨年後半からの最悪期を脱し一時急回復をした需要も、その後横這いとなり、販売数量・売上高ともに前年同期を下回りました。

以上の結果、当事業の売上高は54億5千9百万円（前年同期比22.3%減）となりました。

その他事業

倉庫業は、景気悪化の影響により保管量が減少したため、売上高は減少いたしました。

エレクトロ・セラミックス製品は、医療用向けは堅調に推移いたしました。工業用向けの販売が低調であったため、売上高は前期を下回りました。

以上の結果、当事業の売上高は7億5千万円（前年同期比13.7%減）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、378億円（前連結会計年度末比4億8千9百万円減）となりました。増減の主なものは、流動資産は、たな卸資産が4億8千5百万円減少、固定資産は、投資その他の資産が5億1百万円増加、有形固定資産が6億3千7百万円減少いたしました。

負債合計は153億7千5百万円（前連結会計年度末比11億2千9百万円減）となりました。増減の主なものは、流動負債は、短期借入金が7億1千4百万円増加、支払手形及び買掛金が4億7千3百万円、設備関係支払手形・同未払金が6億6百万円それぞれ減少、固定負債は、長期借入金が9億3千9百万円減少いたしました。

純資産合計は224億2千5百万円（前連結会計年度末比6億4千万円増）となりました。増減の主なものは、その他有価証券評価差額金が5億3千3百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は、営業活動によるキャッシュ・フローが、20億4千9百万円（前年同期比18億4千万円増）の収入となりました。主な要因は、減価償却費を

14億6千6百万円計上したことなどによるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローが、14億9千1百万円（前年同期比4億3千万円減）の支出となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による13億6千8百万円の支出によるものであります。財務活動によるキャッシュ・フローが、4億9千8百万円（前年同期比2億2千5百万円減）の支出となりました。主な要因は、短期借入金の純増額9億1百万円がありましたが、長期借入金の返済11億5千万円の支出によるものであります。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は25億5千4百万円（前年同期比2億3千4百万円増）となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の経済見通しにつきましては、世界経済低迷の影響、円高傾向による輸出企業の収益圧迫等予断を許さない状況が続くものと予想されます。

当社グループを取りまく事業環境は次のとおりであります。

・酸化チタン関連事業

酸化チタンに関しましては、ここにきて原油価格が再び高騰していること、更に円高による輸入品との価格競争、世界的な需要減退の影響を受けており、販売数量の減少にとどまらず、採算においても依然として厳しい状況が継続するものと予想されます。

微粒子酸化チタン、表面処理製品につきましても、世界の需要減退の影響が避けられず、販売数量の減少及び採算面におきましても引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。

・その他化学品事業

界面活性剤は、景気低迷の影響はあるものの、洗剤・シャンプー向け等日用品用途の底堅い需要のため引き続き堅調に推移するものと予想されます。

導電性高分子酸化重合剤に関しましては、回復基調にはあるものの、大きな変化はないものと予想されます。

通期の連結業績につきましては、現時点で売上高300億円、営業利益9億5千万円、経常利益9億円、当期純利益5億円を見込んでおります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月27日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日）を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第2四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

これによる損益及びセグメント情報に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,633	2,563
受取手形及び売掛金	8,563	8,356
有価証券	14	14
商品及び製品	4,910	5,445
仕掛品	583	532
原材料及び貯蔵品	2,199	2,201
その他	359	586
流動資産合計	19,264	19,699
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,729	4,322
機械装置及び運搬具（純額）	6,490	5,927
その他（純額）	1,870	3,478
有形固定資産合計	13,090	13,727
無形固定資産	174	93
投資その他の資産		
投資有価証券	4,108	3,289
その他	1,182	1,503
貸倒引当金	△20	△23
投資その他の資産合計	5,270	4,769
固定資産合計	18,536	18,590
資産合計	37,800	38,290

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,195	3,668
短期借入金	3,391	2,676
未払法人税等	211	46
賞与引当金	276	249
その他	2,017	2,716
流動負債合計	9,091	9,357
固定負債		
長期借入金	3,610	4,550
退職給付引当金	2,503	2,393
その他の引当金	2	1
その他	166	202
固定負債合計	6,283	7,147
負債合計	15,375	16,505
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,855	9,855
資本剰余金	6,767	6,767
利益剰余金	5,184	5,119
自己株式	△426	△425
株主資本合計	21,380	21,317
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,014	480
為替換算調整勘定	△40	△73
評価・換算差額等合計	973	407
少数株主持分	71	59
純資産合計	22,425	21,784
負債純資産合計	37,800	38,290

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	17,768	14,452
売上原価	14,580	11,667
売上総利益	3,187	2,784
販売費及び一般管理費	2,389	2,224
営業利益	798	560
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	79	64
その他	42	43
営業外収益合計	125	108
営業外費用		
支払利息	81	86
その他	39	23
営業外費用合計	120	110
経常利益	803	558
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	2
移転補償金	—	27
特別利益合計	—	29
特別損失		
固定資産除却損	48	57
投資有価証券売却損	—	35
投資有価証券評価損	28	—
その他	0	—
特別損失合計	77	92
税金等調整前四半期純利益	726	495
法人税、住民税及び事業税	320	230
法人税等調整額	△66	△56
法人税等合計	254	173
少数株主利益	4	6
四半期純利益	467	314

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	726	495
減価償却費	1,267	1,466
受取利息及び受取配当金	△82	△65
支払利息	81	86
売上債権の増減額 (△は増加)	△871	△194
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△840	499
仕入債務の増減額 (△は減少)	296	△501
その他	212	133
小計	788	1,919
利息及び配当金の受取額	82	65
利息の支払額	△81	△87
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△581	151
営業活動によるキャッシュ・フロー	208	2,049
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,036	△1,368
投資有価証券の取得による支出	△7	△5
その他	△15	△117
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,060	△1,491
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,046	901
長期借入金の返済による支出	△1,064	△1,150
自己株式の取得による支出	△6	△1
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△249	△248
財務活動によるキャッシュ・フロー	△272	△498
現金及び現金同等物に係る換算差額	△110	10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,235	70
現金及び現金同等物の期首残高	3,555	2,484
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,320	2,554

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)

	酸化チタン 関連事業 (百万円)	その他 化学品事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	9,872	7,026	869	17,768	—	17,768
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	430	1,857	912	3,200	(3,200)	—
計	10,303	8,884	1,781	20,969	(3,200)	17,768
営業利益	61	711	8	781	16	798

当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)

	酸化チタン 関連事業 (百万円)	その他 化学品事業 (百万円)	その他 事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	8,242	5,459	750	14,452	—	14,452
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	361	1,434	843	2,639	(2,639)	—
計	8,603	6,893	1,593	17,091	(2,639)	14,452
営業利益	190	364	3	557	2	560

(注) 1 事業の区分は内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分に属する主な製品は次のとおりであります。

(1) 酸化チタン関連事業……………酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品、
光触媒用酸化チタン等

(2) その他化学品事業……………界面活性剤、硫酸、低分子量芳香族スルホン酸、
無公害防錆顔料、導電性高分子酸化重合剤、電池セパレータ等

(3) その他事業……………倉庫業及びエレクトロ・セラミックス製造販売

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。